

科目	交通システム工学 (Transportation System Engineering)		
担当教員	橋本 渉一		
対象学年等	都市工学科・3年・前期・必修・1単位		
学習・教育目標	工学複合プログラム	-	JABEE基準1(1)
授業の概要と方針	有史以来発展を遂げてきた市民工学(Civil Engineering)とは、軍事工学(Military Engineering)以外のすべての工学を総称した概念である。この中から主として社会資本設備を建設する近代の土木工学が発展し、現代では都市形成のための社会工学の概念まで広く含めて、都市工学と称している。本教科では前半に、この都市工学全般の概念を広く習得し、後半には主として神戸市を例として都市計画全般を習得する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	土木工学の発祥から現代都市工学までの技術的發展を説明できる。		土木工学から現代都市工学までの技術的發展を説明できるか、中間試験で評価する。
2	社会資本形成のための土木事業の役割について説明できる。		社会資本形成と土木事業の役割について説明できるか、レポートおよび中間試験で評価する。
3	各種土木施設の基本的機能について説明できる。		各種土木施設の基本的機能について説明できるか、レポートおよび中間試験で評価する。
4	都市の形成と歴史的発展について説明できる。		都市の形成と歴史的発展について説明できるか、定期試験で評価する。
5	都市と土地利用の関係について説明できる。		都市と土地利用の関係について説明できるか、レポートおよび定期試験で評価する。
6	都市の発展と都市計画の役割について説明できる。		都市の発展と都市計画の役割について説明できるか、レポートおよび定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標1～6に対して、演習・レポートなどの学習成績30%、中間試験、定期試験70%の割合で総合評価する。		
テキスト	「土木工学概論[改訂版]」、石井一郎、鹿島出版会 配布プリント		
参考書	「土木工学概論」、黒田勝彦・和田安彦、共立出版 「新都市計画総論」、佐藤圭二・杉野尚夫、鹿島出版会 「都市計画[第2版]」、橋本武、森北出版		
関連科目			
履修上の注意事項	1年生の地理、2年生までの都市工学科専門科目を理解、修得していることが前提となる。3年生の専門科目で並行して授業のある、構造力学、水理学、土質力学、コンクリート工学、測量学等の知識を幅広く修得する必要がある。		

